



## 吉野彰教授のノーベル賞授賞式に 出席した小原章裕学長のコメント

本学の吉野彰大学院理工学研究科教授が2019年ノーベル化学賞を受賞したことに関し、小原章裕学長が以下のコメントを発表しました。

吉野彰先生に同行し、2019年ノーベル賞の授賞式など一連の行事に出席しました。感動を共有すると同時に、本学から受賞者を出せたことにあらためて感激しました。

私事ですが、先生はノーベルレクチャーの中で、リチウム電池の開発には、38年前の福井謙一先生、19年前の白川英樹先生の各ノーベル化学賞受賞業績が関わっていると触られました。福井先生の受賞は小生の大学院生時代の出来事で、研究分野は異なりますが同じ化学を研究している者として非常に感銘を受けた記憶がよみがえりました。そういう事もあり、本日は感慨深い一日となりました。心からお祝い申し上げます。

ノーベルレクチャーでの先生の言葉「現在の社会が直面する環境問題に対する、経済(economics)、利便性(convenience)、環境(environment)の調和の重要性。授賞理由となった、持続可能な社会の実現にリチウムイオンバッテリーが貢献する」を直接耳にし、共感を覚えました。

授賞式ではカール16世グスタフ・スウェーデン国王からメダルを贈られる厳粛なシーンに胸を打たれました。

ノーベルレクチャーの中でも産業界出身者がノーベル賞を受賞したことは大きいと語っておられます。実学教育を重視している本学にとって先生のご経験は何物にも代えがたいものです。吉野先生は、縁あって2017年7月に大学院理工学研究科教授に就任しました。2018年度から毎週月曜日の1時限目に講義をもち、大学院生に対して「エネルギー環境材料工学特論」を講じ、「間違えてもいいから自分で考える癖をつける」ような課題を与えてこられました。

本学は2014年の赤崎勇終身教授・特別栄誉教授、天野浩特別栄誉教授（元理工学部教授）のノーベル物理学賞受賞を記念した展示室を校友会館に設けています。日本をはじめ台湾、タイなどで活躍する20万人の卒業生にとって誇れる場所になっています。

本学は2026年に開学100周年を迎えます。立学の精神として「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を掲げています。吉野先生の受賞を機に、本学は世界の科学技術の発展と環境問題の解決に貢献していく決意を新たにしました。

2019（令和元）年12月11日

名城大学学長 小原章裕